

西大芦漁協管内での早期小型種苗放流の効果について

2024. 7. 4 栃木県水産試験場

アユ種苗放流は、最低水温が8℃を超えた頃から始まります（水産庁マニュアル bozu.pdf (maff.go.jp))。近年、温暖化による河川水温の上昇もあり、今までよりも早い時期に放流する漁場が増えていきます。こうなると、アユが川で成長する期間をより長く確保できるので、今までよりも小型の種苗の放流が可能です。なるべく小型の種苗を放流した方が1尾あたりの単価が安く、たくさんのアユを放流することができます。

西大芦漁協では、4月下旬から5月上旬にかけて5gの種苗を放流してきましたが、2023年は4/20（平均4.6g）、2024年は4/12（平均3.53g）というように放流の早期化と放流サイズの小型化に取り組んでいます。

その結果を見ると、これまでと比べて生残率が低下することもなく、試し釣りや解禁日の釣獲状況も良好でした。特に、今年は過去10年間の中で試し釣りの平均サイズが最大、解禁日の総釣果も最高となりました。

河川ごとに、どこまで放流を早期化できるか、どこまで放流サイズを小型化できるかは異なりますが、早期小型種苗は釣れるアユ漁場をつくるのに有効であると考えられます。

表1 解禁までの生残率、試し釣り及び解禁日の釣獲状況の推移

年	放流量 (万尾)	放流サイズ (g)	解禁直前の 生息数(尾)	生残率(生息数 /放流量)	試し釣りの状況			解禁日の状況					
					日付	平均全長 (cm)	平均体重 (g)	日付	釣り人数 (人)	釣れ具合 (尾/時間)	平均釣果 (尾/日)	総釣果 (尾)	回収率 (総釣果/放流量)
2015	15	5	150,000	100%	6月19日	15.3	32.1	6月28日	377	3.07	26	9,807	6.5%
2016	13	5	118,000	91%	6月17日	14.6	30.8	6月26日	437	2.83	24	10,351	8.0%
2017	13	5	124,700	96%	6月8日	14.6	27.9	6月17日	309	3.77	28	8,600	6.6%
2018	13	5	143,300	100%	6月7日	14.9	27.9	6月16日	258	4.19	31	8,000	6.2%
2019	13	5	81,000	62%	6月6日	14.5	24.5	6月15日	200	4.58	34	6,870	5.3%
2020	13	5	100,700	77%	6月11日	14.1	26.8	6月20日	390	2.58	20	7,949	6.1%
2021	10	5	74,300	74%	6月10日	14.0	22.2	6月19日	300	2.83	18	5,519	5.5%
2022	10	5	70,200	70%	6月9日	13.4	18.7	6月19日	266	3.69	18	4,908	4.9%
2023	12	4.6	87,600	73%	6月14日	15.1	30.7	6月18日	290	4.72	36	10,352	8.6%
2024	13	3.53	100,800	78%	6月20日	17.1	46.9	6月30日	333	3.88	36	11,936	9.3%

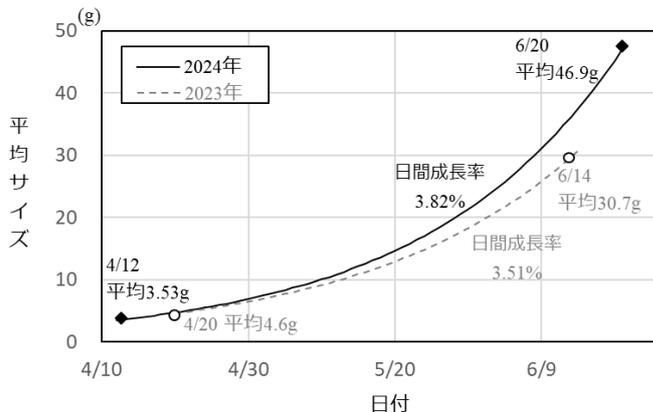


図1 放流サイズと漁獲サイズから推定した成長の推移

写真1 釣獲されたアユ